

学校だより 2月号

令和4年2月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL

<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



未来を生きる子どもたちのために
～人にも自然にもやさしい環境をみんなで～

校長 池澤 道弘

慌ただしく1月が過ぎ、季節は二十四節気最後の節気である「大寒」を迎えています。ご案内のとおり、大寒とは「厳寒期」を指し、1年の中で一番寒い時期にあたります。逆に言えば、この後は少しずつ春の兆しを感じられるようになるという意味合いも含まれています。今年の冬は、例年になく寒い日が多いですが、学校の周りでも気の早い梅の花がチラホラ咲き始めているようです。年末には収束を期待するほど減少していた感染症が、新たな変異株の影響で急激に拡大し、埼玉県においても今月13日まで「蔓延防止重点措置」の対象区域となっています。今後の状況によっては行事や教育活動の中止・縮小等を余儀なくされる場合もあるかもしれませんが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、昨年10月から、コスモスアリーナふきあげに隣接する「鴻巣市コウノトリ野生復帰センター」（愛称「天空の里」）で、埼玉県こども動物自然公園から譲り受けた2羽の二ホンコウノトリ（特別天然記念物）が飼育されています。（「鴻巣」の地名は、市内の鴻神社が舞台となっている「こうのとり伝説」が由来していると言われています）コウノトリ野生復帰センターは、コウノトリを飼育し、繁殖させた鴻巣生まれのコウノトリを本市の空に放鳥することを目指していますが、取組の目的はコウノトリが野生復帰できるような環境を整えることであり、延いては人にとっても安心・安全で住みやすい環境になることを願って行われています。このコウノトリが1月29日より一般公開されています。本校は学校周辺の環境が豊かな自然に恵まれていることもあり、平成28年に埼玉県こども動物自然公園の方の出前授業を、そして平成30年には兵庫県立コウノトリの郷公園の方の出張授業を実施し、コウノトリの生態や野生復帰の取組などを学んできました。

人にも自然にもやさしい環境を、未来を生きる子どもたちに残していくには、一人一人が環境を守る努力をしていくことが大切なのではないかと思います。感染症の状況が落ち着いたら、地元の施設「鴻巣市コウノトリ野生復帰センター」にお子さんと一緒に足を運び、ご家族で環境を考える契機にいただければ幸いです。

【こうのとり伝説】鴻巣市HPより抜粋

むかしむかし、鴻巣の宮地に本宮（もとみや）というところがあり、そこに小さな祠が祀られていました。側には「木の神」と呼ばれる大きな木があって、村人はその木を「神様の木」として大切にしていました。ところがその木はお供えをしないと災いを起こすので人々は困っていました。

あるとき、1羽のコウノトリがやってきて、その大木に巣を作ったまごをうみました。すると、どこからか大きなへびが出てきて、そのたまごを食べようとしていました。怒ったコウノトリは矢のように巣に舞い戻り、そのへびと戦いになりました。そうして、ようやくへびを追い払いました。

その後、この地には災いもなくなり平和な日々が続くようになったということです。

村人たちはコウノトリに感謝して、その木の下にお宮をつくり、コウノトリのお宮「鴻の宮（こうのみや）」と名付け、この土地の守り神としました。

そしてこの地はいつのころからかコウノトリが巣を掛けたところとして「鴻巣（こうのす）」と呼ばれるようになりました。

